

## TUBA

## ワンポイント・アドバイス

## I 行進曲「煌めきの朝」

作曲：牧野圭吾

## ◆ここが大切！ワンポイントアドバイス

マーチのベースは、歩きたくなるようなリズムを奏でることが大切です。

音の長さで迷ったら、「裏打ちと重ならない長さ、交互に聞こえる長さ」を意識しましょう。

また、テンポをキープしながら、「フレーズの山」を作ると表情豊かな演奏になると思います。

## ◆これで解決！ワンポイントレッスン

練習番号【K】は、この曲の難所です。

十六分音符が一音一音はっきり聞こえるように、息をまっすぐ太く流し続けましょう。

B♭管で第4バルブがついている楽器は、指が2.3から2.4になるときに、2を押したまま3と4がスムーズに移動できるよう、手を鏡に写したり、動画で撮影したりして、目で確認しながら練習すると効果的です。

## II ポロネーズとアリア ~吹奏楽のために~

作曲：宮下 秀樹

## ◆ここが大切！ワンポイントアドバイス

ポロネーズとは3拍子の舞曲です。

【A】の音の形は、裏打ちのリズムを引き出すような音の形を目指してみましょう。

また、裏打ちと1つの伴奏形になるように一緒に練習しましょう。

## ◆これで解決！ワンポイントレッスン

この曲の一番の難所は、何と言っても低いGの音色ではないでしょうか。

唇の空気が流れている穴を大きく保ち、太い息を楽器に送り込みましょう。

また、発音するときの舌の位置などを研究することも大切です。

7小節目のGは、6小節目3拍目裏のDとリップスラーでつなげて、息の太さを瞬時に低いGの形にする練習が効果的だと思います。

また、Gを1オクターブ上げて音の形を作る練習も良いでしょう。

## TUBA

## ワンポイント・アドバイス

## Ⅲ レトロ

作曲：天野正道

## ◆ここが大切！ワンポイントアドバイス

ポップスのベースとリズムセクションは、普段以上に安定したテンポをキープすることが重要です。

自分の頭の中でビートを刻みながら、ドラムスが伝えたいことを常を感じ取り、「管楽器との繋ぎ役」を担っている感覚を掴みたいところです。各曲のジャンルを理解し、2拍目と4拍目に重みがるリズムパターン(バックビート)を表現できるよう研究しましょう。

フルスコアの解説に、エレキベースのニュアンスを感じとって欲しいと書いてあります。エレキベースの音を言葉で表現すると「弦を弾いた瞬間が一番大きくなり、そのまま少しずつ減衰しながら鳴り続けている弦を、強制的に止める」の様に、これらの特徴をチューバではどのように表現するか熟考しましょう。

## ◆これで解決！ワンポイントレッスン

音の形をつくる練習は、スラーやテヌートで音の高さに合った息の流れを確認した後、アタックやリリースの形を整えましょう。Bright RockやCrossoverの休符前のリリースは、流れている息を舌で「せき止める」というイメージで行うと上手くいくと思います。【E】・【F】は、ウッドベースをイメージして練習してみましょう。

## Ⅳ マーチ「ペガサスの夢」

作曲：水口透

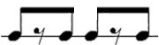
## ◆ここが大切！ワンポイントアドバイス

この曲は8分の6拍子【2拍子】なので、1拍の中に八分音符が3つずつ入ります。

チューバのパートに出てくる付点四分音符は、強調したい音になっています。

例えば、16小節目のように2拍目に付点四分音符が出てくるときは、17小節目の1拍目に向かうエネルギーを表現しましょう。

## ◆これで解決！ワンポイントレッスン

基準となるリズムは  です。ペガサスが駆けている足音をイメージして「タッタ タッタ」のリズムを頭の中で鳴らしながら演奏しましょう。

また、このリズムを普段のタンギング練習に取り入れてみましょう。

2小節目や139小節目のようにタイが拍にまたがっている箇所(シンコペーション)は、リズムが取りにくいと思います。

タイをとって練習し、隠れているリズムを確認してから、楽譜通りのアクセントをつけてみましょう。